

矢作川の魚類相

Faunal List of Freshwater Fishes Collected from the Yahagi River

長井健生・増田元保

Kensho NAGAI & Motoyasu MASUDA

緒言

碧南海浜水族館では、1991年に矢作川に生息する魚類を展示する矢作川コーナーの改修を行った。このコーナーにおける展示は、従来より行われてきたただ単に魚類を水槽に収容して見せるだけの展示手法とは異なり、収容された生物が生息する周囲の地形・植生環境などを取り入れた Habitat-Display と言われる展示である。また、1992年には10周年記念特別展「矢作川展」の開催が計画されていた。

当館では、この特別展の準備のため矢作川に生息する魚類相の把握を目的とした調査を行うこととなった。調査は、矢作川における生息魚類の概況を知るため、1991年に予備調査を行い、1992・1993年に本調査を行った。

矢作川は、長野県下伊那郡平谷峠と愛知県設楽郡茶臼山付近に源を発し、岐阜県境沿いに東加茂郡、西加茂郡、豊田市、岡崎市、安城市を流れ、西尾市と碧南市で三河湾に注いでいる。

かつての矢作川河口は、幡豆郡一色町、吉良町で三河湾に注ぎ（現在の矢作古川）、大雨が降るたびに氾濫を繰り返してきたため、慶長8年（1603年）に桜井村の木戸から米津（現在の安城市桜井―西尾市米津）の間に長さ1310mの掘割（矢作新川）が築かれ、現在の川筋となった。源流については、平谷峠とする説と茶臼山とする説があり、川の長さについても118km、122km、137kmなど資料によってさまざまである。現在、矢作川の本流には、上流から順に矢作第1ダム、矢作第2ダム、笹戸ダム、百月ダム、阿摺ダム、越戸ダム、明治用水頭首工の7ヶ所のダムがあり、この他にも支流には幾つかのダムが築かれた管理河川である。

矢作川全域の魚類相については、梅村（1958, 1963, 1990, 1993）の報告がある。また流域である豊田市域については梅村（1978, 1980）、岡崎市域については永井・大平（1978）があり、その他各市町村の市史・町史などに魚類調査報告がある。その他、生物だけでなく矢作川全体については、環境創造研究センター編（1992）や松井貞雄編（1993）などがある。入手困難な資料や執筆者の記載されていない資料も含まれるが、矢作川水系の魚類について記述のあるものは、できるだけ多く紹介するため参考文献に記載した。

なお、本報告は碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館編（1992）及び増田他（1994）をもとに加筆したものである。

1. 調査方法

魚類相の調査は、予備調査を1991年に行い、調査は1992年から1993年に行った。1991年4-5月に矢作川本流の現地地下見を行い、東加茂郡旭町(寿橋)から岡崎市(天神橋付近)までの15地点を予備調査の調査対象とした(図1)。予備調査は8-10月に実施した。調査方法は、主として投網による採集方法を用い、一部の調査地点では手網、セルビンなどによる採集も併用した。

調査地点は、予備調査で調査を行った15地点のうち、環境の異なる6地点で調査を行った(図2)。今回の調査では、支流、流域の湖沼、ダム湖などは範囲に含まれておらず、矢作川すべてを網羅するものではない。調査期間は、1992年6月から1993年5月まで毎月1回、合計12回の調査を行った。また、釣り人が多い場合や、ダムの放流による増水、工事などの場合は中止した。調査方法は、予備調査で用いた投網、手網、セルビンのほか、一部の調査地点では巻き網による採集も併用した。調査で採集した魚類は、カラー写真撮影後10%ホルマリン水溶液で固定し、当館の魚類標本として登録した。

種の検索は、益田他(1984)を用い、川那部・水野(1989)、中坊編(1993)も参考にした。

2. 調査地点の概要

調査範囲は、矢作川本流と明智川との合流点から明治用水頭首工(水源ダム)下までの本流域である。調査範囲の河川形態は、St.1からSt.4まではAa-Bbの移行型で、調査地点の間にはいくつものダムがあり下流へ行くにしたがい富栄養化している。St.5ではBb、St.6ではBb-Bcへの移行型となっている。また、発電用や農業用の多くの水利施設で網目のように水系が繋がっている。

- St.1 矢作第1ダムにより堰止められ、明智川との合流点までは水の流れのないことが多く、調査区域は明智川の合流地点から明智川にある小さな堰までとした。12回の調査のうち流れが認められたのは、1992年12月の1回だけであった。
- St.2 St.1との間には笹戸ダムがあるが、小さな堰堤でダムの上流と下流では水質に差がなく魚道も整っている。矢作第1ダムで取水した水は、時瀬発電所で放水されている。調査地点は、笹戸発電所の放水口の下流から笹戸大橋までとした。平瀬が続く、このあたりまでは透明度が高い。
- St.3 St.2との間には、百月ダム、阿摺ダムがあり急に透明度が悪くなる。矢作第2ダムで取水した水が百月ダムの下流にある矢作第2発電所より放水される。また、百月ダムより取水された水は百月発電所で、阿摺ダムより取水された水はすぐ下流にある発電所よりそれぞれ放流される。
- St.4 このあたりは大きな礫が平瀬に点在しており、鮎釣りの人が多く見られる。調査地点は、犬伏川との合流地点とした。1993年1月から橋の工事が始まり調査ができな

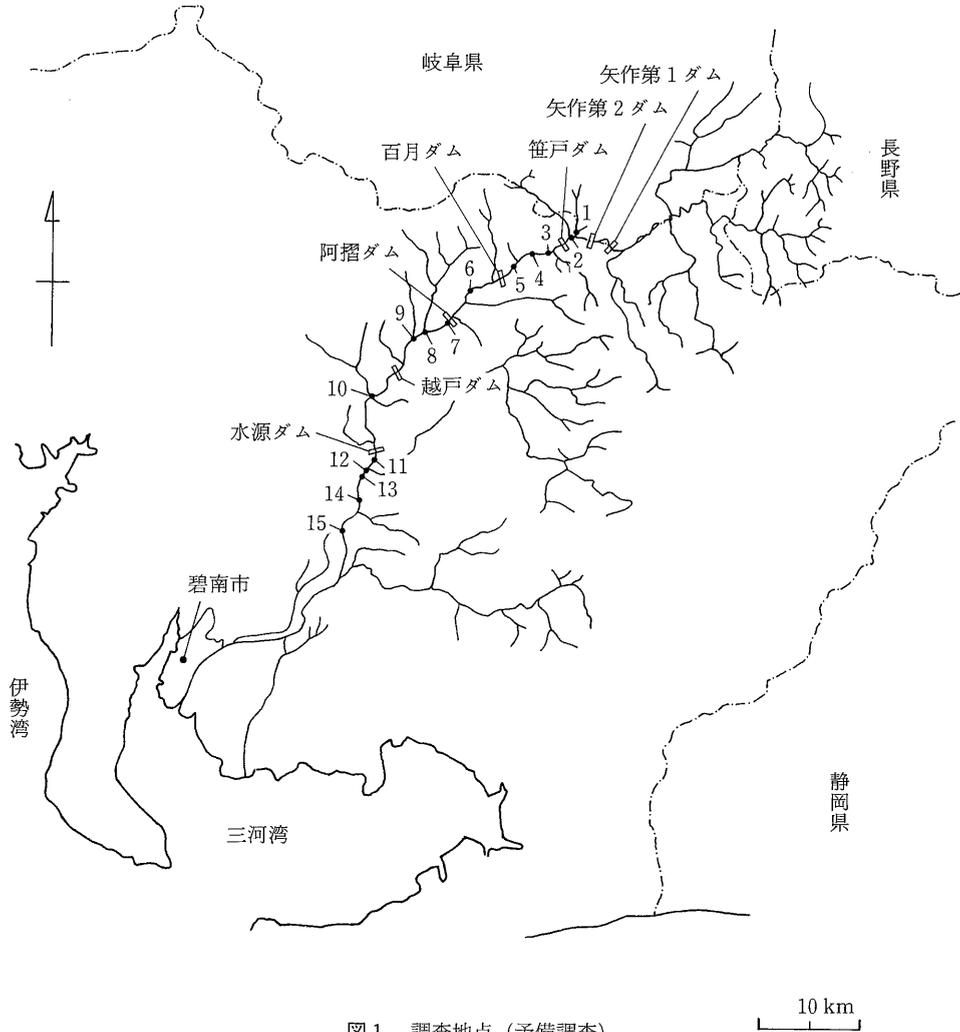


図1 調査地点 (予備調査)

かった。

- St. 5 St. 4 との間には、越戸ダムがあり、取水された水は越戸発電所から放流され、一部は枝下用水として利用されている。調査地点は、籠川との合流地点とした。この区域は広い瀬となっており、一部には浅いワンドがありコカナダモが繁茂していた。
- St. 6 矢作川のダムとしては最も下流に位置する水源ダムがあり、明治用水頭首工となっている。調査地点は、頭首工に設けられた魚道の下とした。

3. 調査結果と考察

調査は、鮎釣りの解禁や釣り大会、ダムの放水、工事などで行えなかったこともあったが、概ね毎月1回1年間行うことができた。本調査で確認された魚種は6科25種であり、

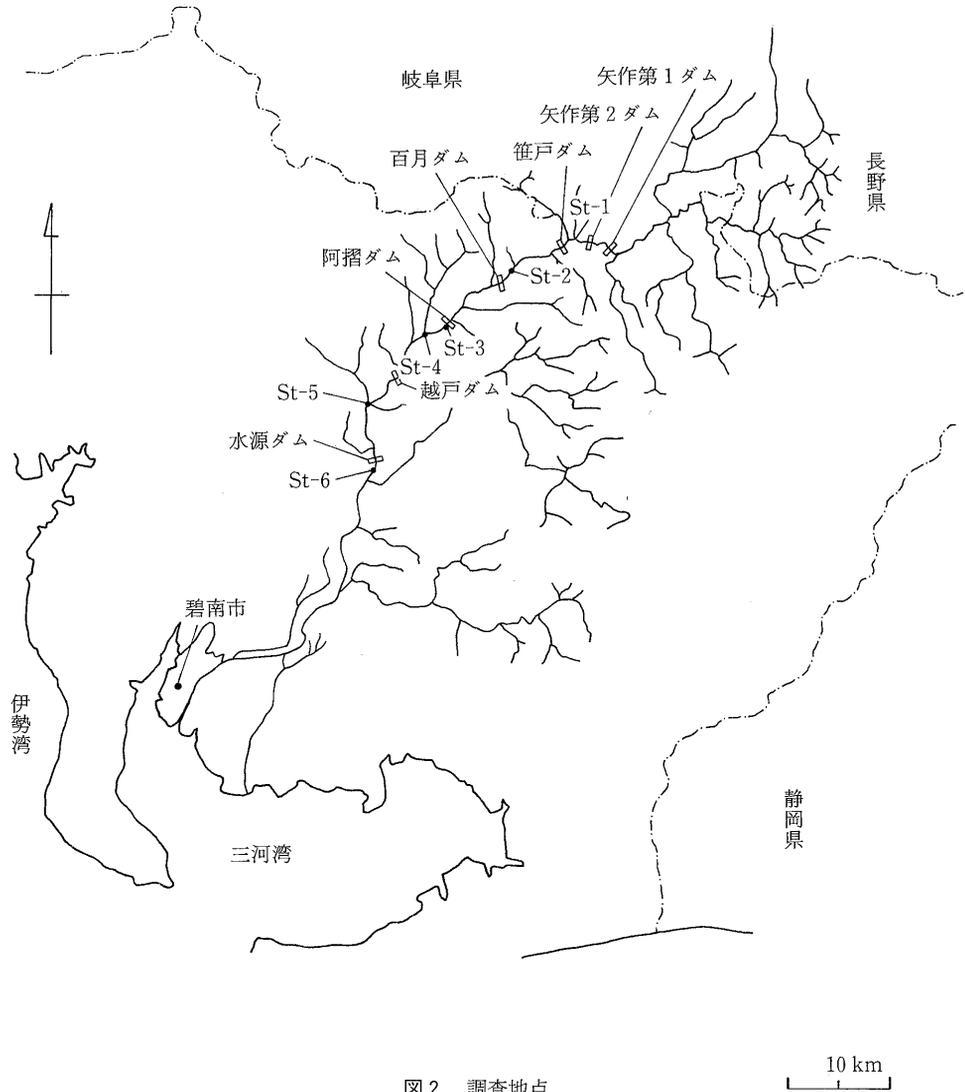


図2 調査地点

1991年に実施した予備調査の結果とあわせると8科28種であった(表1・2)。

以下に確認された28種の種ごとの生息状況を記す(*については、予備調査のみで確認された種)。

- アユ *Plecoglossus altivelis* St. 1-6までの全ての調査地点で採集した。矢作川でも天然に溯上しているが、琵琶湖産のコアユや種苗生産されたアユが放流されている。
- サツキマス(アマゴ) *Oncorhynchus masou macrostomus* St. 1・2およびSt. 6より採集した。St. 6では明治用水の頭首工下で40 cmを越える個体を6月に7尾、8月に2尾採集した。また、8月には高水温によると思われる死亡個体3尾を確認した。伊勢湾・三河湾より溯上したが、魚道を上らず留まっていた個体と思われる。いずれの個体も体色は銀白色で、パーマークは消失していたが朱点は認められた。St. 1・2で採集され

た個体は5-20 cmで、放流されるものより小型の個体も含まれており自然繁殖もしていると思われる。

- ・イチモンジタナゴ* *Acheilognathus cyanostigma* 1991年に実施した予備調査では、St. 6で採集しているが、今回の調査では確認されなかった。梅村(1958, 1963)では、本種を移入種として扱っている。梅村(1980, 1990)では「以前見られたが見られなくなった種」として報告している。しかし、梅村(1993)により再び生息が報告されている。本種が移入種であるかどうかは不明であるが、いずれにせよ生息数はかなり少ないものと思われる。
- ・タイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* St. 6において採集しているが、矢作川よりも周辺の小川や池に多く生息している。矢作川への移入については不明であるが、バラタナゴとして梅村(1958, 1963)に記載がある。また梅村(1990, 1993)ではニッポンバラタナゴが移入されていたと報告しており、タイリクバラタナゴとニッポンバラタナゴが混称されていた可能性がある。矢作川水系におけるタイリクバラタナゴとして明示した記載は、永井・大平(1978)にはじめて記録されている。
- ・カワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus variegatus* St. 5・6において採集した。これまでの矢作川における魚類調査では、カワヒガイとビワヒガイを区別せずヒガイとして報告されており、琵琶湖からの移入種として扱っている場合が多い。カワヒガイとビワヒガイは、尾柄高/頭長比で区別することができる。採集された個体は、尾柄高/頭長比が49%以上でありカワヒガイとした。
- ・カマツカ *Pseudogobio esocinus* St. 1-6までの全ての調査地点で採集した。矢作川では上流から河口域まで広く分布しており生息数もかなり多い。
- ・ニゴイ *Hemibarbus barbus* St. 1-6までの全ての調査地点で採集した。大きな個体は60 cmであった。
- ・タモロコ *Gnathopogon elongatus* St. 5のみで採集した。調査範囲における生息数は少ないが、下流域や流れのゆるやかな用水路・小川に分布している。
- ・イトモロコ *Squalidus gracilis* St. 2・5の2地点でコウライモロコの群に混じって採集された。梅村(1958, 1963)は、琵琶湖からの移入種として報告している。後に梅村(1990・1993)は、かつて生息していたが現在は確認できなかった種として報告している。永井(1983)は、岡崎市周辺に多く分布しており、さらに永井(1985)では天然分布の可能性を示唆している。
- ・コウライモロコ *Squalidus chankaensis* subsp. St. 1-5までの全ての調査地点で採集した。これまでの矢作川における魚類調査では、スゴモロコとして報告されているが、近年スゴモロコはコウライモロコの琵琶湖固有亜種とされた。本報告では、コウライモロコとして扱った。この他に矢作川においては近縁のデメモロコの報告があるが、本調査では確認されなかった。
- ・ゼゼラ *Biwia zezera* St. 3で1個体採集したのみであるが、1991年に行った予備調査でもまったく同じ場所から採集している。アユの放流とともに琵琶湖から移入したと考えられる。
- ・モツゴ *Pseudorasbora parva* St. 5・6の流れの弱い深みで採集された。本流より

流域の用水・池などに多く生息している。近縁のウシモツゴは、本調査では確認されなかった。

- ・ウグイ *Tribolodon hakonensis* St. 1-6 までの全ての調査地点で採集された。陸封型と降海型の両方が生息していると考えられる。St. 6 より下流では、40-50 cm の個体をよく見かける。
- ・アブラハヤ *Moroco steindachneri* St. 1 だけから採集された。矢作川流域では、タカハヤと区別せずドロバエなどと呼ばれている。
- ・タカハヤ *Moroco jouyi* St. 2 より 1 個体採集したのみである。既知の調査ではまったく報告がないが、梅村 (1993) はタカハヤ型をしたアブラハヤが多いと報告しており、混称されている可能性が高い。当館では、本調査以外で矢作川の支流の数ヶ所で生息を確認している。
- ・オイカワ *Zacco platypus* St. 1-6 までの全ての調査地点で確認している。早瀬・淵・ダム湖などのかなり異なった環境でも生息でき適応力がかなり広い。
- ・カワムツ *Zacco temmincki* St. 1・2・3・4・6 より採集した。オイカワ同様に上流から河口周辺まで広く分布している。カワムツは、岡崎他 (1991) により A 型・B 型の 2 型に分けられているが、本調査で採集したカワムツは全て B 型であった。調査範囲より下流では A 型も採集されており、両型とも生息を確認している。
- ・ハス *Opsariichthys uncirostris* St. 1・3・5 より採集されているが、生息数はそれほど多くない。琵琶湖よりアユとともに移入したもので、矢作川にも定着している可能性が高い。
- ・フナ類 *Carassis auratus* sp. 矢作川流域には、ギンブナ、オオギンブナが生息していると思われるが、詳細に同定していないため明らかにゲンゴロウブナと分かるもの以外は、本報告ではフナ類としてまとめた。St. 1・2・6 より確認されたが、全ての調査地点に生息していると思われる。
- ・ゲンゴロウブナ *Carassius auratus cuvieri* St. 5・6 より採集されたが、漁協によりかなり広い範囲に放流が行われている。フナ類については、詳細な調査が必要と思われる。
- ・コイ *Cyprinus carpio* St. 5・6 より採集されたが、本種もフナ類同様漁協により放流が行われている。本調査では体高の高いものばかりで、野生型と思われる個体はまったく確認できなかった。
- ・ハゲギギ* *Pelteobagrus nudiceps* 伊勢湾・三河湾に流れ込む河川には自然分布していないとされており、おそらく琵琶湖産のアユとともに移入されたと考えられる。本調査では確認されなかったが、予備調査で St. 6 より採集されている。また近縁種のネコギギの生息は確認できなかった。矢作川水系におけるネコギギの生息については、別に詳細な調査を行っている。
- ・ナマズ* *Silurus asotus* 本調査で確認されなかったが、予備調査で St. 6 において目視観察されている。本種は、矢作川水系に広く生息しているが、調査を日中に行ったため採集されなかったと思われる。
- ・カムルチー *Channa argus* St. 6 において採集された。本種は、1923 年に日本に移入

されたとされている。矢作川での記録は、梅村 (1958) があるが、1949 年に碧南市内 (油ヶ淵) で採集された標本が碧南市立西端小学校に保存されている。矢作川本流にはあまり大きな個体はいないが、流域の池沼では 70-80 cm のものがときどき見つかる。

- ・オオクチバス (ブラックバス) *Micropterus salmoides* St. 5・6 で採集されたが、上流のダム湖から河口周辺の深みに広く生息している。1925 年に日本に移入されているが、矢作川にいつ頃から移入してきたかは不明である。梅村 (1963) には記録がないが、永井 (1978), 梅村 (1980) には記録されている。ルアー釣りの普及とともに 1970 年代後半に広がったと考えられる。
- ・ブルーギル *Lepomis macrochirus* St. 5 において目視観察されただけだが、投網による調査をしている横で子どもたちがミミズを餌にブルーギルを簡単に釣っていた。ダム湖や周辺の池沼の調査を行っていないため生息状況は把握できないが、農業用溜池などで繁殖しているようである。
- ・トウヨシノボリ *Rhinogobius* sp. OR St. 1・2・3・6 で採集された。ヨシノボリは、これまで多くの型に分けられているが、矢作川には橙色型にあたるトウヨシノボリが生息している。矢作川におけるこれまでの調査では、トウヨシノボリとしての記録は見あたらずほとんどの場合カワヨシノボリとされている。また記載の中には、カワヨシノボリとトウヨシノボリの区別をしていないと明記している報告もある。
- ・カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* St. 1 で採集された。また予備調査では St. 2 で確認された。今回の調査では、トウヨシノボリとカワヨシノボリの分布について明確にすることはできないが、トウヨシノボリに比べ上流で確認されている。

各調査地点とも共通して出現した魚種は、アユ、ニゴイ、ウグイ、オイカワの 4 種が上げられる。出現したこれらの魚種の季節的变化を見てみると、いずれの調査地点でも 7 月から 8 月にかけて増加し、9 月から 11 月にかけて減少する傾向にあり、12 月から翌年 3 月にかけてもっとも少ない値を示した。多くの魚種は、冬期に採集しにくい深みやダム湖に移動しているものと考えられる。

また、アユは 4 月から 5 月に出現し、10 月にはほとんど姿を消してしまう。これは季節による消長だけでなく、放流や漁獲による人為的影響が大きいものと思われる。

矢作川の魚類について書かれた出版物は幾つか出版されているが、そのほとんどは梅村 (1958, 1963), 永井・大平 (1978, 1983) をもとに紹介されている。調査方法や調査地点などが同一でないため単純に比較することはできないが、各調査で出現した魚種について示した (表 2)。

過去に記録のある魚種は 76 種にのぼるが、本調査及び予備調査で確認されたものは 28 種である。そのうち新たに確認された魚種は、タカハヤとトウヨシノボリであった。この 2 種については、アブラハヤとタカハヤ、カワヨシノボリとトウヨシノボリを混称していたためと思われる。

76 種のうち 48 種が確認されなかったことになるが、それらはボラ、スズキなど十数種の汽水魚、最上流域のイワナ、小川や水田に生息するドジョウ、メダカなどと、人為的に放流されたニジマス、ワカサギ、ハクレン、ソウギョ、カワスズメ、タウナギなどである。

表1 調査結果

St. 1

●：予備調査で確認された種，○：10尾以上，◎：20尾以上，△：目視観察

調査年月 魚種名	91	92												93				
	予備調査	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月					
アユ	●		◎	◎	4							◎	◎					
サツキマス			1										1					
イチモンジタナゴ																		
タイリクバラタナゴ																		
カワヒガイ																		
カマツカ	●		○	◎	4	1	△	2	1		1	1						
ニゴイ	●		3	3	6		○		△									
タモロコ																		
イトモロコ																		
コウライモロコ			1			1												
ゼゼラ																		
モツゴ																		
ウグイ			3	4	8		◎	7	○		◎	3	◎					
アブラハヤ												1	4					
タカハヤ																		
オイカワ	●		○	◎	○	◎	◎	8	2		◎	◎	◎					
カワムツ	●		○	○								1	○					
ハス				1														
フナ類			5															
ゲンゴロウブナ																		
コイ																		
ハゲギギ																		
ナマズ																		
カムルチー																		
オオクチバス																		
ブルーギル																		
トウヨシノボリ												1						
カワヨシノボリ													1					
出現種類数	5	中止	9	7	5	3	4	3	4	中止	3	7	7					

St. 2

調査年月 魚種名	91	92												93				
	予備調査	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月					
アユ	●		◎	1								○						
サツキマス													1					
イチモンジタナゴ																		
タイリクバラタナゴ																		
カワヒガイ																		
カマツカ	●			3	○	9	4	◎				5	○					
ニゴイ				○		3	△					1						
タモロコ																		
イトモロコ									3									
コウライモロコ	●		○		1	1												
ゼゼラ																		
モツゴ																		
ウグイ	●		○	1	6	7							3					
アブラハヤ																		
タカハヤ								1										
オイカワ	●		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎					
カワムツ			○															
ハス	●																	
フナ類			○															
ゲンゴロウブナ																		
コイ																		
ハゲギギ																		
ナマズ																		
カムルチー																		
オオクチバス																		
ブルーギル																		
トウヨシノボリ			2				△	2										
カワヨシノボリ																		
出現種類数	6	中止	7	5	4	5	4	5	1	中止	1	4	4					

St. 3

魚種名	調査年月	93											
	91 予備調査	92 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
アユ	●		○		1								
サツキマス													
イチモンジタナゴ													
タイリクバラタナゴ													
カワヒガイ													
カマツカ	●		○										
ニゴイ	●		○	5	4	1		1					
タモロコ													
イトモロコ													
コウライモロコ	●		○	○	1	1							
ゼゼラ	●			1									
モツゴ	●												
ウグイ	●		○	5									
アブラハヤ													
タカハヤ													
オイカワ	●		○	◎	3								
カワムツ				1									
ハス				2									
フナ類													
ゲンゴロウブナ													
コイ													
ハゲギギ													
ナマズ													
カムルチー													
オオクチバス													
ブルーギル													
トウヨシノボリ						1							
カワヨシノボリ													
出現種類数	8	中止	6	7	4	3	0	1	中止	中止	中止	中止	中止

St. 4

魚種名	調査年月	93											
	91	92					93						
	予備調査	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
アユ	●					2							
サツキマス													
イチモンジタナゴ													
タイリクバラタナゴ													
カワヒガイ													
カマツカ	●			1		3							
ニゴイ	●			1		3							
タモロコ													
イトモロコ													
コウライモロコ						9							
ゼゼラ				7									
モツゴ													
ウグイ						3							
アブラハヤ													
タカハヤ													
オイカワ	●			7		2	3						
カワムツ								1					
ハス													
フナ類													
ゲンゴロウブナ													
コイ													
ハゲギギ													
ナマズ													
カムルチー													
オオクチバス													
ブルーギル													
トウヨシノボリ													
カワヨシノボリ													
出現種類数	4	中止	中止	4	中止	6	1	1	工事のため中止				

St. 5

魚種名	調査年月	93											
	91 予備調査	92 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
アユ	●			◎	◎		1					○	◎
サツキマス													
イチモンジタナゴ													
タイリクバラタナゴ													
カワヒガイ	●			4									1
カマツカ	●			5	○	2	2		△	1	1	1	○
ニゴイ	●			5					△				
タモロコ					1								3
イトモロコ													○
コウライモロコ	●			○		6					2		
ゼゼラ													
モツゴ				3								1	
ウグイ	●				6							1	
アブラハヤ													
タカハヤ													
オイカワ	●			◎	◎	2			2		3	1	◎
カワムツ													
ハス				1									
フナ類													
ゲンゴロウブナ	●				1								
コイ								△	△				
ハゲギギ													
ナマズ													
カムルチー													
オオクチバス	●			4	1	1							1
ブルーギル	●			△									
トウヨシノボリ													
カワヨシノボリ	●												
出現種類数	11	中止	中止	10	7	4	2	1	4	1	3	5	7

St. 6

魚種名	調査年月	92					93						
	予備調査	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
アユ	●	○	○	◎	◎	◎							
サツキマス		7		2									
イチモンジタナゴ	●												
タイリクバラタナゴ			2										
カワヒガイ	●		1	1	2	2							
カマツカ	●	○	◎	○	1	3							
ニゴイ	●	○	3	○	◎	◎			1		1	△	
タモロコ													
イトモロコ													
コウライモロコ	●		◎	◎									
ゼゼラ													
モツゴ	●		5	◎	◎								
ウグイ	●	○	○	○	5							2	
アブラハヤ													
タカハヤ													
オイカワ	●		◎	◎	◎	5							
カワムツ	●	○	1					△					
ハス													
フナ類				1	2	◎						△	
ゲンゴロウブナ	●	○	1	1				△					
コイ	●	○	1		△	◎						△	△
ハゲギギ	●												
ナマズ	●												
カムルチー		1		1	△								
オオクチバス	●		1	4	1	◎	△					△	
ブルーギル													
トウヨシノボリ			4										
カワヨシノボリ													
出現種類数	15	9	14	13	11	8	3	0	1	0	1	5	1

表2 過去の調査記録との比較

魚 種 名	梅村 (1958)	梅村 (1963)	永井・大平 (1978)	梅村 (1980)	梅村 (1990)	梅村 (1993)	予備調査 (1992)	本調査 (1994)
スナヤツメ	○	○						
サツパ		○			○	○		
コノシロ		○			○	○		
ウナギ	○	○	○	○	◎	◎		
オオウナギ	○	○			△	△		
ワカサギ					○	○		
アユ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
イワナ	○	○			○	○		
ニジマス					○	○		
サツキマス (アマゴ)	○	◎	○		○	○		◎
ヤリタナゴ	○	◎			△	△		
アブラボテ	○	◎			△	△		
カネヒラ	○	◎			△	△		
シロヒレタビラ (タビラ)	○	◎			△	△		
イチモンジタナゴ	○	◎			△	◎	◎	
タイリクバラタナゴ			○	○	◎	◎		◎
ニッポンバラタナゴ (バラタナゴ)	○	◎			△	△		
カワヒガイ (ヒガイ)	○	◎	○		◎	◎	◎	◎
カマツカ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
ニゴイ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
ズナガニゴイ					※	※		
タモロコ	○	○	○	○	◎	◎		◎
イトモロコ	○	◎			△	△		◎
デメモロコ	○	◎	○		◎	◎		
スゴモロコ	○	◎		○	◎	◎		
コウライモロコ							◎	◎
ゼゼラ	○	◎			◎	◎	◎	◎
モツゴ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
シナイモツゴ					○			
ウシモツゴ						○		
ウグイ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
アブラハヤ	○	◎			○	◎		◎
タカハヤ								◎
オイカワ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
カワムツ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
ハス	○	◎		○	◎	◎	◎	◎
カワバタモロコ	○	◎	○	○	◎	◎		◎
フナ類	○	◎	○	○	◎	◎		◎
ゲンゴロウブナ					○	◎	◎	◎
コイ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
ソウギョ			○		◎	◎		
ハクレン					◎	◎		
ドジョウ	○	◎	○	○	◎	◎		

魚 種 名	梅村 (1958)	梅村 (1963)	永井・大平 (1978)	梅村 (1980)	梅村 (1990)	梅村 (1993)	予備調査 (1992)	本調査 (1994)
シマドジョウ	○	◎	○		◎	◎		
ホトケドジョウ	○	◎	○	○	◎	◎		
ギギ	○	◎		○	◎	◎	◎	
ネコギギ		◎		○	◎	◎		
ナマズ	○	◎	○	○	◎	◎	◎	
アカザ	○	◎	○	○	◎	◎		
クルマサヨリ	○	○			○	○		
メダカ	○	◎	○	○	◎	◎		
ボラ	○	○		○	◎	◎		
カムルチー	○	◎	○	○	◎	◎		◎
スズキ	○	◎		○	◎	◎		
オオクチバス				○	◎	◎	◎	◎
ブルーギル			○		◎	◎	◎	◎
ヒイラギ		○			○	○		
シマイサキ		○			○	○		
コトヒキ		○			○	○		
カワスズメ					◎	◎		
カワアナゴ	○	○			○	○		
ドンコ	○	◎	○	○	◎	△		
アベハゼ	○	○			○			
トウヨシノボリ								◎
カワヨシノボリ (ヨシノボリ)	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
チチブ	○	◎			○	○		
シマハゼ		○			○	○		
ビリンゴ	○	○			○	○		
ウキゴリ	○	○			○	○		
マハゼ	○	◎			◎	◎		
ボウズハゼ		○			○	○		
コチ	○	○			○	○		
カマキリ	○	◎			△	△		
カジカ	○	◎			○	○		
イシガレイ	○	○			○	○		
ギマ		○			○	○		
確認魚類種数	52	61	27	28	62	61	19	25

- ・ 和名は、主に日本産魚類大図鑑（益田他 1984）に従ったが、タビラ、バラタナゴ、ヒガイ、ヨシノボリについては、種の特定ができないため著者の用いたままの和名を（ ）で示した。
- ・ ◎：本調査の範囲内より採集記録の認められる種。
- ：本調査の範囲以外、または矢作川水系と報告されている種。
- △：かつて生息していたが、現在は認められないと報告のある種。
- ※：梅村（1990, 1993）の本文中にのみ記載されている種。

調査期間中にスナヤツメ (アンモシーテス), ウナギ, タウナギ, ドジョウ, ホトケドジョウ, シマドジョウ, オヤニラミが支流に生息しているとの情報があり, 当館でもこれら7種を確認することができた。しかし調査範囲よりはずれるため調査結果には含めなかった。

オヤニラミについては, 人為的に放流されたものと思われるが, 幼魚も確認されており局所的に定着している可能性がある。

本調査で確認できなかった種についても, 48種中35種を調査期間外に支流や池沼で確認している。しかし, オオウナギ, ヤリタナゴ, アブラポテ, シロヒレタビラ, カネヒラ, ニッポンバラタナゴ, ズナガニゴイ, デメモロコ, ネコギギ, アカザ, ドンコ, カジカ, ボウズハゼについては確認できなかった。そのうちアブラポテ, カネヒラ, ニッポンバラタナゴ, ズナガニゴイ, デメモロコの5種については, アユの放流に伴い一時的に出現したとも考えられるが詳細については不明である。また, オオウナギ, ヤリタナゴ, シロヒレタビラ, ネコギギ, アカザ, ドンコ, カジカ, ボウズハゼについては, 極めて生息数が少ないか, または既に絶滅してしまった可能性もあり, 詳細な調査・保護の必要性がある。

Summary

We did a preliminary investigation at 15 stations, in order to know the general fauna of fishes at the Yahagi River in 1991. And we had a main investigation in 1992 and 1993. The places we investigated are 6 different environmental stations. That comes from the confluence of the Akechi River and the Yahagi River to the Meiji irrigation watergate. An investigative report related to an previous report that the Yahagi River from the upper stream to the mouth of the river confirmed that their were 76 species of fish. In this investigation, we recorded 28 species of 8 families. These included 19 spp. of 6 fam. by preliminary investigation and 25 spp. of 6 fam. by main investigation at the middle reaches of the Yahagi River. We newly recorded 2 spp. *Phoxinus oxycephalus* and *Rhinogobius* sp. OR. We can confirm almost all species inside of the 76 spp. that were on record until our recent investigation. However, we can't clearly verify information about 4 or 5 species.

We think that more detailed investigation is necessary for the protection of these fishes and their natural environment.

文 献

- 愛知県農地林務部編 (1984) 保全を要する自然環境要素分布調査報告書。自然環境保全基礎調査, 151 pp.
- 岩松鷹司・斉藤弘治・村松時夫・天野保幸・大林芳美・斉藤裕子 (1983) 愛知県内のメダカの生息分布調査。愛知教育大学研究報告, 32 : 131-143.

- 梅村鎔二 (1958) 地理的分布から見た矢作川水系産魚類. 採集と飼育, 20, (10) : 294-297.
- 梅村鎔二 (1963) 矢作川水系の魚類. 矢作川の自然. 名古屋女学院短期大学, pp. 35-53.
- 梅村鎔二 (1973) 西尾市の魚類. 西尾市史, 史料4 (西尾市の生物), pp. 19-59.
- 梅村鎔二 (1978) 豊田の淡水魚. 豊田市史, 史料 (6 自然), pp. 686-700.
- 梅村鎔二 (1980) 豊田の魚 1. 豊田市教育委員会, 57 pp.
- 梅村鎔二 (1990) 愛知県の淡水魚. pp. 247-250. 東海の自然史. 東海財団.
- 梅村鎔二 (1993) 愛知の淡水魚類. 167 pp. 梅村鎔二, 愛知.
- 大平仁夫・永井貞・鶴田彦四郎 (1979) 岡崎市の淡水魚相一池編一. 岡崎市教育委員会. 32 pp, 24 pls.
- 岡崎登志夫・渡辺昌和・水口憲哉・細谷和海 (1991) 遺伝的に識別されるカワムツの2型について. 魚類学雑誌, 38, (2), 133-140.
- 川那部浩哉・水野信彦 (1989) 日本の淡水魚. 719 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 環境創造研究センター編 (1992) 矢作川一流域研究の系譜と将来一. 矢作川流域振興交流機構, 129 pp.
- 倉内一二編 (1984) 愛知県の自然環境 1984. 愛知県農地林務部, 278 pp.
- 佐藤正孝 (1993) 矢作川水系の生物相. 矢作川流域資料調査報告書, pp. 161-204.
- 新編岡崎市史編集委員会編 (1985) 岡崎市の魚類. 新編岡崎市史 (自然), 14 : 738-790.
- 永井貞 (1983) 矢作川の魚類. 岡崎市市史研究, 5 : 99-101.
- 永井貞・大平仁夫・鶴田彦四郎・鶴田清吉 (1978) 岡崎市の淡水魚相一河川編一. 岡崎市教育委員会. 37 pp, 8 pls.
- 中坊徹次編 (1993) 日本産魚類検索. xxiv + 1474 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 原田猪津夫・佃泰幸 (1987) 淡水魚類調査報告書. 61年度自然環境保全基礎調査, 愛知県農地林務部, 42 pp.
- 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館編 (1992) 矢作川の魚類調査報告 1. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報, 5 : 11-15.
- 碧南辞典編纂委員会 (1993) 碧南の動物, pp. 349-396. 碧南辞典.
- 益田一・尼岡邦夫・上野輝彌・吉野哲夫 (1988) 日本産魚類大図鑑第2版. 448 pp, 370 pls. 東海大学出版会, 東京.
- 増田元保 (1993) 矢作川河口における魚類および甲殻類. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報, 6 : 14-26
- 増田元保・亀蔦重範・井澤好之・手島正広・生田春幸 (1994) 矢作川 (中流域) の魚類調査報告. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報, 7 : 13-28.
- 松井貞雄編 (1993) 矢作川とその流域. 矢作川流域開発研究会, 199 pp.
- 村松敦・原田猪津夫 (1988) 淡水魚類調査報告書. 62年度自然環境保全基礎調査, 愛知県農地林務部, 59 pp.

[碧南海浜水族館 : 〒447 愛知県碧南市浜町 2-3]